



◀廣瀬先生は数学に対する思いを熱く語られた。



廣瀬 俊昭 先生

# 数学コンテストの裏側に迫る 分からなくてもあきらめないで

速報新聞

キマグレ

発行所  
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

一年生では現在数学コンテストが行われている。今回はその担当である数学科の廣瀬俊昭先生に詳しいお話を伺った。

元は数学科の高橋英和先生が始められたという数学コンテスト。それを今年廣瀬先生が引き継がれたようだ。廣瀬先生は数学コンテストを引き継ごうと思った理由を「生徒の数学力を高めるためだ。数学コンテストのプリントで数学の問題と向き合い、その力を上げてほしいと思った」と明かされた。

出題する問題は入試や参考書の問題、高橋先生が作った問題などを借りたり、アレンジして条件を変えてみたり、自分で作ってみたりしているそうだ。問題を作るときに気をつけていることを「授業の進度と関連している問題を選んで出すようにしている。授業の復習やテスト勉強になる

ような問題を解かせ、生徒が数学コンテストに取り組んで損をしないようにすることを意識している」と説明された。さらに数学コンテストに取り組むことでたくさん得られることがあると話される廣瀬先生。「出された問題を真剣に解くことで数学力が上がる。また(USB)で数学コンテスト用のフォルダを作り、写真を撮るなどして保存していくと大学受験などで役に立つと思う」とアドバイスされ「数学に対して拒否反応が起こるかもしれない。しかしそれを乗り越えて頑張っしてほしい。難しくても問題を解こうという姿勢を保つことが大切だ」と訴えられた。

そんな数学コンテストのプリントの提出率はだんだん下がっているそうだ。廣瀬先生は「時間がなかったり、忙しかったりして問題に取り組めないのかもしれないが、歩きなながら考えたり隙間時間を使ったりして出題された問題を考えて



## 数学コンテストとは？

教科書にのってない発展的な問題を1週間という短い時間でじっくり考えて、分からない問題でも考える姿勢を育てる取り組みのことだ。

2年生では数学コンテストは行っていないが高橋先生と希望者の何人が週1回集まり、問題についてゼミ形式で討論するという活動をしている。

「ほしい」と微笑まれた。最後に生徒に向けて「出している問題は高橋先生の力作だ。それを解かせてもらっているのに考えることすらしないのはもったいない。数学コンテストに参加して数学に歩み寄ってほしい」と笑顔を見せられた。